

「リニアを考える愛知県連絡会」――街頭宣伝を実施、学習交流会を計画

JR東海は工事を止めて、まず国民的な議論を



横断幕を広げ、訴える柳沢けさみ氏(中央)と、わしの恵子、青木ともこ(左へ)ら、愛知県連絡会のメンバー

1月21日「リニアを考える愛知県連絡会」のメンバーは、連絡会として初めての宣伝行動を名古屋駅東口でおこないました。のぼりと横断幕を掲げ、連絡会世話人らが次々にマイクをとり、道行く人にチラシを渡し、アピールしました。

西区の会で活動するわしの恵子(名古屋市議・県議候補)は、小学校単位の説明会を求める署名を集め、JRに学区での説明会を開かせたことを報告。その説明会で「今でも大型車両が通るのに、さらに1日682台ものダンプが通つたらどうなる」という質問に、JRは



具体的な安全策を示さず納得いく説明をしなかったことを紹介し、抗議の声をあげました。

西区の青木ともこ氏(同市議候補)も訴えました。

春日井の会の柳沢けさみ氏(同県議候補)は、春日井市の地下には亜炭鉱跡があり、リニアのトンネルが掘られれば陥没するのではないかと、住民は不安にいられていると述べ、「本当にリニアは必要なのか、計画を凍結して、みんなで考えましょう」と呼びかけました。

考える会結成、「学習・交流会」を計画

愛知県では、昨年11月「リニアを考える西区の会」「リニア新幹線を考える守山の会」「春日井リニア新幹線を問う会」の3団体が呼びかけて「リニアを考える愛知県連絡会」が結成されています。

結成総会では、各団体の代表から発言がありました。

「地下に広がる亜炭鉱跡にリニアのトンネルが影響を与え、陥没がおこることが一番の問題。国土交通省の認可に異議申し立てをするために会員によりかけをしている」「春日井の会」

「開削工事や土地の補償問題を住民が不安に思っている。説明会を求める署名を集め、JRに300人分を提出した」(西区の会)

「深さ40m以上の大深度地下を通る場合は、直上でも何の補償もないことが問題。計画凍結署名に取り組みたい」(守山の会)

また、代表らは、問題がたぐさんあるのに、沿線住民には知らされていない。住民が直面する問題を入口に、リニア建設問題を解決するために連携を深めようと思っ申しました。

県連絡会では、2月14日(土)午前10時から、「リニア問題学習・交流会」を、名古屋市金山駅の日本特殊陶業市民会館で開催し、国土交通委員会に所属する本村伸子衆議院議員もリニア中央新幹線建設の問題点について発言する予定です。

リニア問題学習・交流会

JR東海が着工に向けた準備作業を始めたリニア中央新幹線。しかし、工事にもなう大規模な環境破壊等への不安、リニア自体への疑問などの声が寄せられています。「リニアを考える愛知県連絡会」としてあらためてリニア問題について学習・交流会を計画しました。ぜひご参加ください。

とき 2月14日(土) 10時~12時

会場 日本特殊陶業市民会館 第1会議室(金山駅北口徒歩5分) 参加費一人200円(会場費・資料代など)

お話し 本村伸子衆議院議員 高木輝雄 名古屋新幹線公害訴訟弁護団事務局長

リニアを考える愛知県連絡会
(連絡先) 代表世話人: 小川輝夫・09099268348、日井素紀・09016299422、川本正彦・09099268346